



善正寺だより

〒512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎059-331-1670
fax:059-332-0733

揭示板法話

拝まない者も おがまれている 拝まないときも おがまれている

(東井義雄)



真宗教団連合のカレンダー「標語、十一月の言葉は皆さんお聞きになったことがあるでしょうか。(亡父が法話の中でよく紹介しておりました) 教育者(ベスタロツチ賞受賞者)で兵庫県豊岡市但東町・東光寺の住職だった東井義雄先生の「何だかうれしく」という詩の中の言葉です。

「無理をせんといてください」
「無理をしないで休んでいてください」
腰が曲がって
ひどく小さくなってしまった老妻に
何べんも気づかってもらいながら
土手の草を刈る
何だか うれしく
何だか しあわせで・・・
「拝まない者も おがまれている」
「拝まないときも おがまれている」
「ここが み手の まんなか」と
土手の草を刈らせてもらう
何だか うれしく
何だか しあわせで・・・

『東井義雄詩集』探究社
痩せた老いの身で土手の草を刈る

東井先生への奥さんの心づかい、腰が曲がって小さくなってしまった老妻への先生の温かいまなざし。仏さまと共にあるご夫妻の豊かで、深く穏やかな日常の「ここが目に浮かんできます」。

「拝む」とは普通、人間が神仏を礼拝することですが、それを忘れている人も仏さまからおがまれている。拝むことを忘れて怒ったり、愚痴ったりしている時も、おがまれているとは何と驚くべきことではないでしょうか？ 親鸞聖人の著述になる「正信念仏偈」の中に、

「煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我」(煩惱に眼が遮られて見えずといえども、大慈悲は倦くことなく常に我を照らし給う)とあります。むさぼり、怒り、愚かさに明け暮れる我々凡夫を、「救い取らなければ仏とは成らぬ」という如来大悲の悲願が、今この身の上で働きかけて下さるのですね。
「ここが(み仏さまの)み手のど真ん中」だと大悲の光を浴びつつ、土手

☆行事ご案内☆

◇報恩講 講師 守快信先生(滋賀)

11月2日午後1時半 夜席は無し

※お非時の代わりに今年はお持ち帰り弁当。申込希望者は午前10時から12時までに寺へお越し下さい。家族の追加希望もOK10/25までに寺へお電話下さい。

11月3日午前10時 (世話方・行事は弁当用意)

午後1時:三全仏婦主催(三役・班長でお勤め)

◇秋勧進11月23日(祝)前8時より 行事、世話方、住職が手分けして巡回します。ご協力よろしくお願ひします

◇お内仏報恩講12月5日(土)前10時半庫裏仏間、弁当用意

◇第10回百五銀行阿倉川支店門徒展10月1カ月間

開催中、報恩講期間中でも本堂に展示、絵手紙、布絵、絵、

◇絵手紙教室11月10日(第2火)前10時庫裏55回目

◇歌声喫茶11月19日(第3木)後1時本堂で15回目

◇キッズサンガ11月7日(土)後4時鐘撞きは毎夕5時

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索。一年分の寺報閲覧可。毎日更新『住職と坊守のつれづれ日記』好評、開設12年で33万訪問コメント歓迎。お悩み相談急増即返信

◇一縁会テレホン法話059・354・1454で3分法話

◇新納骨堂:後継者の無い方お墓でお困りの方ご相談を

◇法事場所でお困りの方:寺にご相談下さい。本堂使用可

の草をかりながら奥様に感謝しつつ身の幸せを喜ぶとは何と尊く美しい光景でしょうか。遠い布教先から帰還の夜、奥様の足をもみ拝んだ、という先生のエピソードは、親鸞聖人と奥方・恵信尼さまの「拝み合う夫婦像」とそっくりだと感心します。
兵庫県日本海側の貧しいお寺に生まれ育ち、教員として生徒たちに作文を書くことで地に着いた人間教育(仏教教育)を施された先生は、詩を通じて今も尚、私たちに仏さまの眼差しに導かれた「いのちの輝き」を発しておられるのです。
「親鸞さま、有難う」の報恩講の前に、浄土に至る念仏の道を共に歩みたいと思うばかりであります。

☆ 写真アラカルト ☆



ちびっ子大集合。拝む子もあり、拝ま
ず横を向く子あり。されど仏縁尊し!

坊守スケッチ

「自分の都合メガネ」を外す



昨年秋小杉町仏教会の追悼法要に講師としてお迎えした釈徹宗先生の
新刊で『教えて釈先生、子供のための
仏教入門』(谷口雅美共著)を購入しま
した。小3の孫も先生にお会いして以
来大ファン。漫画イラスト入りで子供
でも親しみやすく、子供向けの仏教入
門書かと思いきや、坊守業46年の私で
も知らないことばかりで新鮮な感動
を受け、孫が読む前に私が一気読みし
ました。その中で特に印象に残った言
葉を紹介します。それは『自分の都合
メガネ』を外すという言葉です。

とかく私達は自分の都合のいいよう
に物事を見がちです。そもそもそれが
間違いだとも知らず、相手が悪いと非
難します。お互いに歩み寄る努力もせ
ずに、もめごとは一向に解決しません。
釈先生は仏教を子供でも分るよう
に端的に解説されました。

「お釈迦様は『自分の都合メガネ』を
外し、生きる上での苦しみや悩みの原
因と解決法を見つけた人です。悟りを
開いた人を『仏様』と言います。その
人の教えだから仏教です。仏教はど
うすれば『自分の都合メガネ』を外せる
のか、どうやったら仏様になれるのか
を教えてください。『道しるべ』です。
『自分の都合メガネ』は自分もかけ
ているが、相手もかけていると覚えて

おくだけでも違います。他の人と意見
が違った時に、自分だけが正しいと思
わずに、相手の意見も尊重して聞けま
す。仏教は私達がどう生きていけばい
いのかというヒントになります」
私はある掲示伝道で、これとよく似
た言葉を見つけました。「相手を自分
の思い通りに変えようと思っても無
駄。自分が変わった分だけ、相手も変
わる。先ずは自分が先！相手が後！」
私自身も長い人生を振り返り、今ま
で『自分の都合メガネ』をかけて、周
圍の人を随分傷つけ迷惑をかけたと
恥じるばかりです。仏様の教えを聞
かせて頂きながら『自分の都合メガネ』
を外し、仏様の眼差しを感じつつ、安
らかな気持ちで暮らしたいものです。

俳句

限界の体力試す運動会 釋妙水

落栗や靴底で開け光る艶

昇る陽やビルの谷間に秋の色

朝の秋手話で楽しく通うバス

譲られし席の温もり秋の朝

コンバイン後追う白き鷺の群 釋榮邦

日暮れ待ちお月見泥棒はしやく子ら

落葉踏むアラビア文字の虫食い葉

去る人の声甦る秋彼岸 釋清風

新米の香りほっこり夕餉かな

罌粟苗に染まる夜明けかな

ワクチンの接種急げと秋の風

☆育児な毎日！

十月一日、長男(小三)にとっては、
初めての社会見学の日です。今回は四
日市の産業や消防の仕事について
学ぶために、茶業振興センターや消防
署へ見学に行きました。

その数日前、参観で社会の授業を見
学したのですが、社会見学の事前学習
かと思いきや、当日のバスの座席決め
ジャンケンで大盛り上がり。みんなと
ても楽しみにしている様子でした。

朝からソワソワしていた長男は元
気よく登校。そして帰宅後は「お茶ク
イズ」が次々と長男から出され、なか
なかの難題でした。煎茶、玉露、ほう
じ茶、かぶせ茶などお茶の種類は製法
や加工法の違いで多くの種類があり
ます。紅茶もウーロン茶も茶葉です。

変幻自在のお茶の世界は奥が深そう
ですね。消防署では署員の方が使うお
風呂を見学したり、出勤までの着替え
の時間を計ったりと貴重な体験をし
たようです。市民の安心と安全のため
に日々働いて下さっている方に頭が
下がる思いです。

コロナ禍で学校行事中止が続くな
か、社会見学へ無事に行けて感謝です。



ホットニュース

◇報恩講お非時は、今年はお持ち帰り
弁当にします。希望された方は、11
月2日午前10時より12時までに寺ま
で受け取りにお越し下さい。尚まだ追
加できますので、家族で複数人ご希望
の方は、10月25日までに寺か行事さ
んへお申し込み下さい。他所でご希望
の方もどうか遠慮なくお申込み下さ
い。電話申し込みでもOKです。

◇歌声喫茶(第3木・午後1時)は10
月より本堂で開催します。感染対策と
りくエストの歌詞をホワイトボード
に貼ってマンドリンで歌うためです。

◇『第十回善正寺門徒作品展』百五銀
行阿倉川支店で10月1カ月間開催中。
前期と後期に作品入れ替え。報恩講で
も本堂に展示します。

◇報恩講の夜席、今年は無し。二日目
午後三全仏婦報恩講は役員と班長で
お勤めします。他は例年通りです。

◇秋勤進11月23日午前8時
◇お内仏報恩講12月5日午前10時半
カンパありがとう
高木重明様、伊藤博一様、他匿名様よ
り感謝します。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」323号をお届けし
ます。◇コロナ禍の報恩講は、三密回
避の簡略型が多く、地域によっては中
止もあると聞く。ぎりぎり、最善の努
力、工夫が必要と思われる。◇東井義
雄先生には父在世の時代、二度ご出講
頂き、「拝まない人も・・・」の言葉
が添えられた礼状が届いた。唯念仏。

今年も残り二ヶ月、秋が一気に深まりました。コロナで親しい人とも疎遠になり寂しさが増えます。特に大切な人を亡くされたご遺族の悲しみをお察しします。45年間姑さんと同居したお嫁さんが「姑の遺品整理をしていると涙が溢れる。夫々に思い出が詰まって簡単に捨てられない。姑とは実母の二倍以上の歳月と共に生活。生前は葛藤もあつたけれども亡くなつて初めて自分を育ててくれた「真実の親」と気付いたわ。突然の別れになるならばもう少し優しくすればよかつた」と後悔するばかり。でも中陰法要で悲しみも次第に癒され、姑は「私に老後の予習をさせて下さったのね」と言いました。姑は百歳を目前に三ヶ月の入院で往生。生前留守をしつかり守り、孫育てに協力し、病気がちな嫁に代わって家事を分担。気丈に生活した^コできたお姑さん^コでした。入院中コロナで面会もままならず寂しい思いをさせたそうですが、姑のたつての希望で自宅仏間での家族葬をされました。コロナで色々な生活が見直され、原点復帰の兆しかもしれません。一方コロナ以来、お寺ではお悩み相談が増えています。「親と離れて暮らしている私達は迷い悩んでどこへ相談していいか分かりません。気軽に話を聞いて頂けるお寺の存在が有難い」との声。お寺は本来悩める人々に寄り添う場所です。今年も報恩講が近づいてきました。11月2日のお非時はお持ち帰り弁当です。10/25まで追加も受け付けます。3日前・午後は三全仏婦主催、簡素化ながら心を込めてお勤めします。どうのお参り下さいませ。合掌

令和二年十一月

善正寺 坊守 拝